

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

# オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立高南中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目  
運動の時間(50分)



2コマ目  
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1コマ目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

## 2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」  
等を伝える



個人またはグループワーク  
で話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

### ●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2020年10月20日(火)21日(水)

■ク ラ ス : 2年1組(31名)、2年2組(32名)、2年3組(32名)、2年4組(31名)

■オリンピアン : 小塚 崇彦 先生(スケート/フィギュアスケート)【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限、3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューの意味を説明し、東京2020大会は1年延期となったが、皆にはこのオリンピックバリューを覚えておいて欲しいと伝え、準備体操に移る。
- ・準備体操として、身体をほぐし、新聞じゃんけんバランスを実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・ボール渡しリレー (2班ごと3チームで全3回実施)
- ・各チーム工夫しながらより早くボールを運ぶことを競う。
- ・各回終了後に作戦タイムを設ける。



## 4. まとめ



- ・運動の時間にもオリンピックバリューを感じられる部分があったことについて触れ、座学の時間は自身の経験を踏まえて、さらに詳しく伝えていく、と予告し授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限、4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・トリノ大会の映像を見せながら、フィギュアスケートのルールや競技中の心境について解説。  
 ・オリンピックシンボルの意味、ピエール・ド・クーベルタンの考え方等、オリンピックの意義、自身の経験を通して感じたオリンピックバリューについて、  
 エクセレンス＝卓越、ジャンプが跳べない時に工夫したこと、フレンドシップ＝友情、サポートしてくれた周りの人々、リスペクト＝敬意・尊重、ドーピングをしない等、ルールを守ると説明。

3. グループワーク



発問：運動の時間または体育祭(全体リレー、綱引き等)に向けて、どのようにオリンピックバリューが活かせるか考えてみよう。  
 発表：エクセレンス「練習から全力で取り組む、全員でしっかり走りきる、あきらめずに最後まで頑張る」等  
 フレンドシップ「応援をかかさない、助けたいの気持ちを忘れない、皆で力を合わせる」等  
 リスペクト「相手のチームと競えることに感謝する、他のチームもしっかり応援する」等

4. まとめ



・2時間の授業を通して、皆の身近にオリンピックバリューがあることに気がついたと思う。学校生活の中で、特にテストの時には、勉強してから望む、分からないことを人に聞く、カンニングしない等、オリンピックバリューをそのまま活かせるので、是非覚えておいてほしい、と伝え授業終了。

■ 集合写真

2年1組



2年2組



■ 集合写真

2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了証贈呈

